

OLS 委員会の活動内容

JMA 東埼玉総合病院 骨粗鬆症リエゾンサービス委員会 田中広美

当院における OLS 委員会の活動内容を報告します。委員会の目的は、骨粗鬆症による脆弱性骨折を減少させ、健康寿命を延伸する事である。2015 年度から骨粗鬆症に関心と意識を持った多職種が集まり、骨粗鬆症リエゾンサービス委員会を立ち上げ、院内及び地域での活動を開始した。活動内容は、①脆弱性骨折患者における骨粗鬆症検査と治療を推進する（二次骨折予防）、②続発性骨粗鬆症の原因を有する患者に骨粗鬆症検査を推奨する（一次骨折予防）、③職員・患者・地域住民に向けた脆弱性骨折と骨粗鬆症に対する啓発活動を行うとした。初めに取り組んだのは、脆弱性骨折の二次予防の強化である。委員会発足以前より、脆弱性骨折で入院した患者の検査から治療に繋げる試みは行っていたが漏れている現状があった。そのため入院患者に関しては、漏れを軽減するため脆弱性骨折で入院した患者のリスト表を作成し、検査漏れなどのチェックを行った。検査実施した患者に対しては退院前、もしくは骨粗鬆症外来で検査結果と治療について、医師より説明出来るようセッティングを行った。外来においては、外来担当医師へ、骨粗鬆症治療へつないでもらえるよう依頼し、検査などオーダーしやすいシステム作りを行った。対象患者に対しては直接声掛けし検査を勧める、掲示物やリーフレットの作成、待合室モニターにスライドを流し啓発活動を行った。続発性骨粗鬆症患者の発見に関しては、膠原病内科が非常勤であるため、患者が絞り込みやすいと考え関節リウマチ、ステロイド経口薬にて治療を行っている患者にターゲットを絞った。外来患者を全員チェックし、必要な骨粗鬆症検査及び治療へ導くように活動している。院内では全職員向けに、骨粗鬆症に対する知識を持ってもらうことを目的に勉強会を開催している。地域住民に対しては、市民公開講座や骨粗鬆症講演会を開催し、超音波式骨密度の無料測定や骨粗鬆症相談ブースの設置等を行っている。まだまだ院内でも骨粗鬆症治療の必要性を理解し活動している職員は一部である。院内の職員が骨粗鬆症に対し、意識を持ってもらうことが必要である。また、検査・治療を拒否される患者も多いことから、地域住民への啓発活動も重要であると考え。